



地方独立行政法人 青森県産業技術センター

林業研究所



<https://www.aomori-itc.or.jp/>

あもりの未来、技術でサポート

林業研究所が所有・管理する「土地と建物」について

一 はじめに

皆さんは林業研究所が所有・管理している土地と建物について、どこにどんな土地があつてどんな建物が建っているかなど、良く知らないし、あまり気にしたこともないかと思います。

林業研究所は、職員数が十三名（非常勤・臨時職員を含む）で、職員数から見ると青森県産業技術センター（以下、青森産技）内の十三研究所の中でも規模の小さな組織となります。

しかし、そんな林業研究所が所有している土地や建物などの不動産は意外と沢山あり、その管理は非常に大変です。

と言うことで、今回は多くの皆さんにとつて、あらかた興味が無いであろうと思われる、林業研究所の土地と建物についてフォーカスを当ててみたいと思います。

二 林業研究所は大地主か!?

林業研究所は、平内町のほか、十和田市、東北町にそれぞれ土地を所有しています。

平内町小湊地区には、研究管理棟や木材利用実験棟などの多くの施設がある研究拠点となる土地が五・一haあります（写真1）。また、同じ平内町と山館地区には試験・研究フィールドと



写真1 平内町小湊地区(林業研究所)【面積：5.1ha】

※写真の数字は、表1 林業研究所内の建物一覧表に対応

して活用している七六・五haの実験林を所有しています(写真2)。



写真2 平内町山館地区(実験林)【面積：76.5ha】

十和田市高清水地区には、林木育種の研究や林業用種子の生産拠点となる十和田ほ場が一九・七haあり(写真3)、東北町乙供山地区と篠内平地区にはカラマツ種子の生産増を目的とした八・一haの乙供山採種園を所有しています(写真4)。

これらの土地の合計面積は一〇九・四haとなり、青森産技の中では一八六・七haを所有している畜産研究所に次ぐ広大な土地を所有・管理する研究所で、かなりの大地主ということになります。

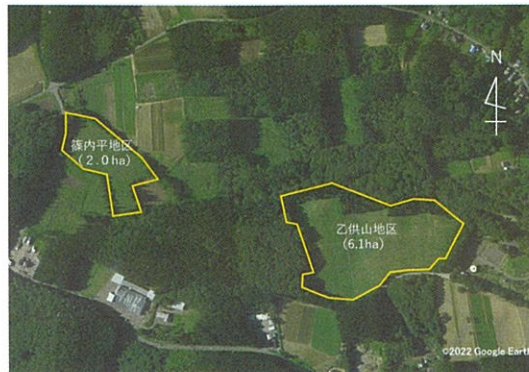


写真4 東北町乙供山地区、篠内平地区(乙供山採種園)【面積：8.1ha】

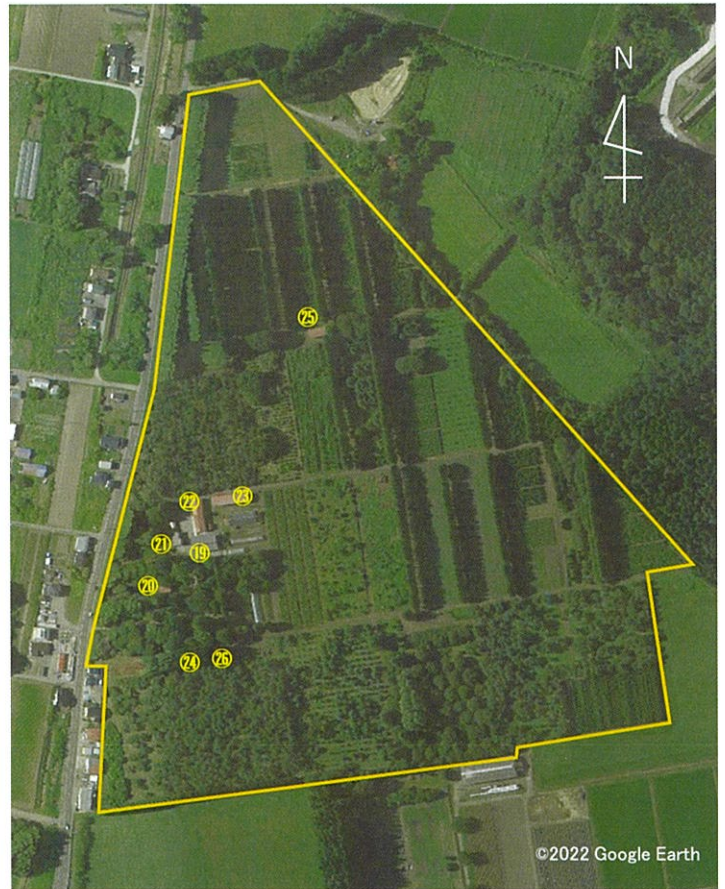


写真3 十和田市高清水地区(十和田ほ場)【19.7ha】
※写真の数字は、表1 林業研究所内の建物一覧表に対応

一〇九・四haの土地には新しい建物から六十年以上経過する古いものまでいろいろな役割を持った建物が二十六棟も存在しています。

この内、研究所が所有・管理しているものが二十三棟、残りの三棟は県(林政課)が所有または管理しているものです。

三 二十六棟の建物について！

(一) 林業研究所の拠点施設(平内町)

林業研究所が所有・管理している二十三棟の建物の中で、研究の拠点と



写真5 研究管理棟(平成5年取得)

なるものが平内町小湊地区の研究管理棟であり(写真5)、この研究管理棟

と同時期に建設されたのが、木材利用実験棟と研修棟になります。

これらの建物は、見た目はまだそれほど古さを感じさせない木造の建物ですが、バブル景気が終わり急激に景気が後退した平成五年から六年に掛けて建設されましたので、今年で二十八年から二十九年を経過しています。財務省令で定められている木造建築物の耐用年数である二十四年を越えていますので、帳簿上の財産価格は一円で登録されています。

新築から三十年近く経過し帳簿上の価格がたったの一円ということになっていますが、現在でも木造ならではの味わいを感じさせてくれます。ちなみに青森産技の十三研究所の中で、木造の研究所は林業研究所だけです。

平内町小湊地区の研究施設敷地内には、林業研究所が所有・管理している建物が十五棟、県が所有し、林業研究所が管理している建物が二棟（森林学習展示館、休憩所）、そして、青い森林業アカデミーの実習棟が一棟あります。

これらの中で、最も古い建物は、取得年月日が昭和三十八年三月三十一日の「倉庫」「作業舎（写真6）」「動力舎」の三棟で築五十九年（筆者の年齢と同じ）の木造の建物です。これらも帳簿上の財産価格は一円で登録されており、現在も利用されています。

この古い三つの建物は、昭和三十八年五月に国土緑化推進委員会（現公益社団法人国土緑化推進機構）と青森県



写真6 作業舎（昭和38年取得）

の共催による「植樹行事および国土緑化大会（第十四回全国植樹祭）」が平内町で開催され、旧林業試験場（現林業研究所）が昭和天皇皇后両陛下による御播種行事の会場となっていますので、その直前に建設された建物ということになります。

逆に新しい建物は、令和三年三月に取得した「機械展示・格納庫（写真7）」で、この中に多目的造林機械の「山もつとモット（旧名称・山もつとジョージ）」を保管・展示しています。



写真7 機械展示・格納庫（令和3年取得）

（二）十和田ほ場にある建物（十和田市）
十和田市高清水地区にある「十和田ほ場」は、造林用苗を生産するための

スギ、ヒバ、クロマツなどの種子や穂木を生産する拠点施設です（写真3）。

この十和田ほ場には、八棟の建物が存在していますが、この中の中核的建物が平成三十一年三月十五日に完成した「林木育種研究棟（写真8）」で、育種研究室や作業室、休憩室を兼ねた建物となっています。



写真8 林木育種研究棟（平成31年取得）

十和田ほ場に現存する建物の中で最も古いものは、昭和三十五年三月三十一日取得の「動力舎（写真9）」です。この動力舎は築六十二年と林業研究所が所有・管理する建物の中で最も古いものですが、農業散布用の水の汲み上げに使うポンプが設置されており、現在も使用しています。

四 おわりに

林業研究所は、昭和三十六年十二月に旧林業試験場が県の組織として発足し、昭和三十七年四月から平内町において試験研究業務が開始され、紆余曲折を経ながら林業研究所として現在に至っており、組織発足から六十一年を経過しています。

また、十和田ほ場は、昭和三十六年に十和田市高清水に設置されていますが、それ以前の昭和二十三年当時、第二次世界大戦及び戦後の森林伐採により荒廃した県内の山林に植林するため苗木を生産・供給することを目的とした「県営樹苗養成所」として、上北郡浦野館村（現東北町）と天間林村（現七戸町）に開設されたことが始まりとなっており、七十四年という長い



写真9 動力舎（昭和35年取得）

歴史を持っています。

現在は、あまり多くの資料が残っていませんが、この間、多くの先輩方が本県の森づくりに尽力し現在に至っていると考え、今、私たちが取り組んでいる仕事の責任の重さと、より良い形で次代に引き継いでいくことの重さを感じざるを得ません。

最近、本県の林業界も世代交代が進んで若い林業人が増えていくように感じています。失敗と反省だらけで間もなく定年退職を迎える自分が言うのもおこがましいところですが、若い林業人の皆さんには本県の森林・林業に関わる者としての理想と情熱を忘れずに頑張ってもらいたいと思っております。

(地独) 青森県産業技術センター

林業研究所長 木村 公樹



表1 林業研究所内の建物一覧表

NO	所在	名称	取得年月日	備考
①	平内町 小湊地区	研究管理棟	H5,3,30	
②		木材利用実験棟	H5,3,30	
③		研修棟	H5,12,10	林業アカデミー研修拠点
④		きのご栽培研究棟	H31,3,25	
⑤		機械展示・格納庫	R3,3,30	
⑥		キュービクル・受水槽・発電室	H5,3,30	
⑦		車庫	H5,3,30	
⑧		油送ポンプ室	H5,3,30	
⑨		作業舎	S38,3,31	
⑩		動力舎	S38,3,31	
⑪		倉庫1号	S38,3,31	
⑫		倉庫2号	H5,12,10	
⑬		倉庫3号	H13,3,31	
⑭		堆肥舎	S39,4,13	
⑮		浄化槽ポンプ室	H5,3,30	
⑯		森林学習展示館	—	県所有(研究所管理)
⑰		休憩所	—	県所有(研究所管理)
⑱		林業アカデミー実習棟	—	県リース(アカデミー管理)
⑲	十和田市 高清水地区	林木育種研究棟	H31,3,15	
⑳		車庫	S52,4,25	
㉑		機械格納庫	S43,3,25	
㉒		乾燥舎	S46,11,7	
㉓		倉庫	S57,11,28	
㉔		油庫	S36,10,20	
㉕		堆肥舎	S35,10,1	
㉖		動力舎	S35,3,31	

※工作物を除く